<協同のひろば>

『協同』北海道集会の成功へ、準備進む

――実行委員会、57団体・個人で発足――

手島繁一（法政大学講師）

『協同』のための北海道集会の実現に向けて、1月19日実行委員会が発足した。

北海道集会は、昨年末から協同総研理事の山田定市・北海道大学教育学部教授、大友勝紘・北海道企業組合連合会理事長などが中心となって事務局を組織し、準備が進められてきた（『協同総研ニュース』第1号参照）。

第1回実行委員会に集まったのは以下の面々。山田先生が率いる北大教育学部社会教育教室の鈴木敏正助教授、宮崎隆志助手。小田清北海学園大教授。大友さんの企業組合連合会から小野副理事長、竹下事務局長の三役と砂川と小樽の企業組合代表。センター事業団の南里（札幌）・小林（帯広）さん。北海道市民生協労組の柳田文雄委員長。共同作業所北海道連絡会の曽我則明支部長。事業団全国連合会の山田さんと協同総研から菅野専務理事と私、など。この時点で、集会実行委員は57団体・個人であった。

共同作業所、生協労組宗谷からの期待

それぞれ、集会への思いや問題意識を出し合い、集会の具体的イメージを探った。共同作業所の曽我さんは、「バブル経済の崩壊で、親会社からの受注がストップしてしまった作業所が道内でも多く、深刻な状態である。こうした事態を協同集会を成功させる運動の力によって打開していきたい」と発言。また、生協労組の柳田さんは、北海道においては「過去にあらゆる協同に携わる人達の交流は一度もなかった」ことを指摘、「生協労働者があらためて協同の価値と理念に立った生協運動と労働組合運動をどう組み立てていくか、問題意識をもっている人が多い」と、協同をめぐる交流への期待を語った。

当日は出席できなかったが、全国的にも注目を集めている宗谷の子育て運動（大月書店から『宗谷の教育合意運動とは』『子育て・教育を宗谷に学ぶ』の二冊の本が出ている）に携わっている稚内北星短大の横山先生は「『学校の主人公は、子ども。教育の主権者は父母住民である。』との思いをこめて宗谷の子育て・教育は、教師育ち、父母育ちから、を合言葉に学校を土台に地域の中で、教育での『協力共同』を叫びつづけて20年になります。『人間らしく生きる希望は、地域からの協同のはばひろいネットワークの成長にかかっている』とのよびかけに勇気と激励を感じました。」とメッセージを寄せられた。

地域中核都市に「ダム構築」を！

集会成功のための活動方向ともかかわって、小田先生は、人口10万程度の各地方中核都市・地域に、「協同からの地域づくり運動」の拠点としての「ダム構築」にも取りかかる必要性を強調された。先生自身が北海学園大の北見校勤務時代に、農協関係者、農業後継者、商工業従事者やその後継者、生協、大学の若手技官などの悩みや希望を語り合う放談会を「オホーツク交流会」と銘うって開いた経験は、参加者の興味をかき立てるものであった。この発言に触発されて、釧路・根室地区、旭川地区、帯広地区などで同様な催しを行う可能性が検討されるとともに、地域集会／全道集会が相互に支え合って通年的・持続的に発展させられるような運動方向が話し合われた。

第1回実行委員会では、このほか次ぎの点が確認された。①集会のメインテーマは「『協同』で切り開く地域づくり・仕事おこし」とする。②実行委員長を山田定市、副実行委員長を大友勝紘、事務局長を竹下満高とする。事務局メンバーは、宮崎隆志、飯沢理一郎（専修短大助教授）、南里あゆみ、菅野、手島とする。③早急に、よびかけ、

実行委員会メンバー、各界の期待の声などを掲載した『実行委員会ニュース』を発行し、従来の枠を超えて、幅広く協同の実践団体、研究者、個人によびかける。ニュースは月刊で発行する。

ニュース5000枚、74団体・個人に発送

第１回実行委員会の議論を踏まえて、事務局は早速、『ニュース』を5000枚作成、精力的に各方面への働きかけを始めた。農協、漁協、森林組合、生協の各道連とコープさっぽろを訪問、協力を訴えた。また、中高年雇用福祉事業団のＩＣＡ加盟への協力御礼と報告を兼ねて、今までつながりがなかった北海道協同組合間提携推進協議会（ＪＪＣの北海道支部）を初めて訪問し、協力を要請するとともに、協力要請に訪ねるべき団体について紹介を受けた。

呼びかけを送った団体は、①生活クラブ生協、釧路市民生協などの地域・購買生協、②北大生協など大学生協および連合組織、③国労北海道本部、道労連などの労働組合、④保育連絡会など保育関係団体と労働組合、⑤民医連、勤医協など医療関係団体と労組、⑥農民運動団体、⑦中小企業家団体、⑧婦人団体、⑨劇団さっぽろやわらび座などの文化団体、⑩帯広公清企業組合など事業団の仕事関係で結びついてる企業、法律事務所など、計74団体・個人にのぼる。このうち、劇団さっぽろが実行委員会団体に参加を決定、わらび座が賛同団体として協力参加することになった。

協同の実践交流の場に！
集会イメージを具体化

２月18日には、第２回実行委員会が開かれた。新たに参加した農協労連から、「集会の意義とイメージが今一つ明らかにならない」との問題提起があり、集会の具体的なもち方とも関連して突っ込んだ議論がなされた。

この中では、「協同」の意義について具体的な理解を得るためには、道内で進められている協同の実践について洗いだし、事前の準備の過程でも、また集会そのものにも反映させていくことが必要であること、そのためにも「集会のよびかけ」を道内の実践例に触れつつ練り直し、「案内ビラ」を早急に作成する必要があること、研究者や実践家の主体的な参加を得るために、「アンケート」による実践の集約を計ること、地域中核都市での集会とそのための実行委員会の結成が急がれるべきであること、など意見が出された。

集会は６月13日に

具体的な確認点は、次のようにまとめられた。①集会の日時は、北大の大学祭の関係で、６月13日に延期する。②集会の参加費は2500円とする(昼食、交流会費は別途)。③集会のもち方について。〈午前中は〉講演１ないし２本。テーマはａ）世界的・全国的な協同組合運動の到達と現代的な意義を学ぶ、ｂ）労働者協同組合の全国的到達点を学ぶ、ｃ）仕事づくりと地域づくりを結びつけた特定の典型的な事例の報告、が考えられる。〈午後は〉、基本的には分科会方式にする。分科会のテーマは「アンケート」の集約によって考えるが、「北海道における労働者協同組合の確立」は外せないテーマであるだろう。④いずれにしても、協同の実践を訪ね歩く訪問・アンケートなどの具体的な活動を強めることが緊急の課題である。

理事会等のお知らせ

＝第６回常任理事会＝

○４月３日（土）　10：30～12：30
○明治大学神田駿河台校舎、研究棟４階会議室

＝第２回理事会＝

○５月８日（土）　11：00～16：00
○明治大学神田駿河台校舎、研究棟４階（予定）